



あとがき



コロナ騒動で学会などは軒並み延期、予定していた学会セッション記事がなくなってしまった今号ですが、幸いに充実したものとなりました。執筆者の皆様（+新博士を紹介下さった皆様）にお礼申し上げます。この春に新博士となられた方々は、コロナ騒動下で新生活の立ち上げを強いられることになり、面倒が多かったのではと想像します。

オーストリアは3月16日から食料品店・薬局・銀行など以外すべて閉店。IAEAも在宅勤務体制となり、学校も同週から授業がなくなりました。春の陽気にめぐまれ、広葉樹の新緑が日に日に美しくなるころでしたから、子供たちをウィーンの森によく連れだしました。この時期、林床に目立つのがベアラウフ（Bärlauch）の若葉。ニラの代用品として重宝しますので、山から持ち帰ったものを家内がひたすら醤油漬けにしました（我が家の餃子消費量のほぼ1年分）。日本での近縁種にあたるギョウジャニンニクの調理法をまねて、ベアラウフをさっとゆでて醤油を数滴たらしてみたら、極めて美味でした。

内外からのスキー客でにぎわうチロルでの感染者多発で騒動がはじまったオーストリアでしたが、3月16日以降の色々な規制に対して国民は協力的で、感染もうまく抑えられていたと思います。5月18日には学校が再開され、私も職場に入れるようになりました。

あとがきといえば、私が職場の近況を投稿した号のあとがきで、亡くなられた喜多尾憲助さんが、他記事とともに私の記事にも暖かなコメントを下されたことを思い出します。直接お目にかかる機会はありませんでしたが、先日NHKの「知の巨人たち」という番組の録画をインターネットで見っていたら、大学院生として平和利用三原則にかかわられたお話をされる喜多尾さんに期せずして出会うことができました。

「行事予定」をご覧いただくとわかりますように、今年後半に予定されていた国際会議等も延期されるものが多く、記事が入りにくい状況が続きそうです。みなさま、編集委員への積極的な記事提案をよろしくお願いいたします。

大塚 直彦 2020年6月

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

岩本 修（原子力機構）

宇根崎 博信（委員長、京大）

大塚 直彦（IAEA）

金 政浩（九大）

小浦 寛之（原子力機構）

中村 詔司（原子力機構）

山野 直樹（RADONet）

横山 賢治（原子力機構）